

令和3年(第15回)みどりの学術賞選考委員会
委員長コメント

令和3年(第15回)みどりの学術賞受賞者の選考にあたり、選考委員会は、みどりに関する学術研究に造詣の深い全国の学識経験者約430名の方々に対し、受賞に相応しい候補者の推薦を依頼しました。

その結果、70名の候補者の推薦が得られ、多様かつ大変幅広い研究分野から、受賞に相応しい研究者のお名前を挙げていただきました。

選考委員会は、推薦のあった方々の業績を慎重に調査・審議し、地域生態学分野と分子生物学分野で活躍されているお二人の方が受賞に相応しいとの結論にいたしました。

受賞者のお一方は、公益財団法人地球環境戦略研究機関理事長の武内和彦博士です。地域生態学の分野を確立し、「SATOYAMAイニシアティブ」の主導等を通じて、里山等の二次的な自然生態系の保全と利用の重要性を国内外に発信するとともに、研究成果を持続的な社会-生態システムの再構築を目指すサステナビリティ学へと展開し、共存可能な地域の環境づくり活動に大きく貢献されました。

もうお一方は、公益財団法人かずさDNA研究所副理事長・所長の田畑哲之博士です。分子生物学の分野で、光合成生物として世界初となるラン藻の全ゲノムを解読、国際的なゲノム解読事業への参加等により、作物の多様な遺伝子機能を理解する基盤を築くことで、植物ゲノム情報のデータベースが整備や、環境に与える負荷が低い作物開発等の持続的農業生産系の開発促進に大きく貢献されました。

受賞者のお二人は、いずれも学術的な観点から極めて優れた業績を修められたただけでなく、人類とみどりとに関わりについて深く追求され、みどりを活かして暮らしていく未来を示されました。

選考委員会を代表し、両博士の永年に渡るご研鑽に対し、心から敬意を表するとともに、みどりに関する学術が新たな知をもたらし、社会を動かす源泉になることを期待いたします。

令和3年3月12日

みどりの学術賞選考委員会委員長
横 張 真